資料２－２

千葉市まち・ひと・しごと創生 総合戦略　基本目標、ＫＰＩ改訂一覧
（主な改訂内容）

１　指標の改善

（１）客観指標を積極的に採用し、全体として客観性を向上

○基本目標　［旧］１８指標（客観　７、生活実感　１、行動１、その他　９）
　　［新］１８指標（客観　８、生活実感　０、行動１、その他　９）

○ＫＰＩ　［旧］６９指標（客観２０、生活実感１５、行動１、その他３３）
　　［新］６６指標（客観３７、生活実感　７、行動０、その他２２）

（２）施策の効果をより適切に把握できるよう改善（７指標）

○主な指標≪重点戦略６施策（２）≫

「ちばレポ①地域課題投稿登録者数　⇒　ちばレポのレポート数」

これまでの指標では、市民参加の実際の活動量を把握できないため、ちばレポのレポート数に変更した。

（３）施策の効果を適切に把握できるよう新たに追加（１８指標）

○主な指標≪重点戦略２施策（４）≫

「外国人延べ宿泊者数」

人口ビジョンの見直し状況を踏まえ、観光振興のうちインバウンドに関する指標を新たに追加した。

２　目標値の見直し

（１）実績値より目標値を高く見直し（１１指標）

○主な指標≪重点戦略１施策（１）≫

「各行政分野における連携事業の実施数」

平成３１度末の目標値５事業に対し、平成２９年度末の実績値は１３事業であり、今後も連携事業を推進していくことを踏まえ、平成３２年度末の目標値を１５事業と上方修正した。

（２）実績値より目標値を低く見直し（８指標）

○主な指標≪重点戦略７施策（１）≫

「国際交流ボランティア斡旋件数」

平成３１度末の目標値９２５件に対し、平成２９年度末の実績値は７１０件であり、過去実績の推移を踏まえ、平成３２年度末の目標値を７８０件に下方修正した。

資料2－2

千葉市まち・ひと・しごと創生総合戦略　基本目標、KPI改訂一覧

重点戦略1　自立した“ちば”共創都市圏で、わたしたちが果たす役割の追求

判定	区分	基本目標（旧）	区分	基本目標（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更	その他	従業者数の増	その他	民営事業所の従業者数	－	－	人	397,226	406,378	407,000	経済センサス	全国的に事業所数が減少傾向にあるとともに、生産年齢人口の割合は減少していることから、横ばいで設定。※外国人人材の雇用に関しては動きが不透明であるため、考慮していない。
変更なし	その他	交流人口の増 ①幕張新都心年間来街者数	その他	交流人口の増 ①幕張新都心年間来街者数	－	－	万人	4,820	4,700	増を目指す	所管課で集計	H26年度は大規模商業施設のオープンに伴い、一時的に数値が上がったため、H29年度末の数値と比較し増を目指す。
変更なし	その他	交流人口の増 ②JR千葉駅乗車人員	その他	交流人口の増 ②JR千葉駅乗車人員	－	－	人／日	103,592	105,807	106,200	JR東日本公表値	過去の乗車人員の増減をもとに推測

施策（1）「競争」から「共創」の地域連携へ

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	その他	各行政分野における連携事業の実施数	その他	各行政分野における連携事業の実施数	－	－	事業	－	13	延べ15事業	地方創生の取組に関する事業一覧	今後も連携事業の実施を推進していくことを踏まえ、目標値を設定。

重点戦略2　都市の活力を支える産業の振興と人材の育成

判定	区分	基本目標（旧）	区分	基本目標（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更	その他	従業者数の増（再掲）	その他	民営事業所の従業者数（再掲）	－	－	人	397,226	406,378	407,000	経済センサス	全国的に事業所数が減少傾向にあるとともに、生産年齢人口の割合は減少していることから、横ばいで設定。※外国人人材の雇用に関しては動きが不透明であるため、考慮していない。
変更	客観	市内年間商品販売額	客観	小売業の年間商品販売額	卸売業、小売業の数字から、指標としてより相応しい観点から小売業のみに変更	政策評価の見直しで創設（No123）	百万円	937,812	1,111,876	951,000	経済センサス	小売業の年間消費販売額は、年度によってバラつきがあるため、人口推計におけるH26からの伸び率を踏まえ設定
名称変更	客観	市内事業所数	客観	市内民営事業所数	－	－	事業所	31,987	31,015	31,220	経済センサス	全国で企業数は減少傾向にあり、市内企業の増加も見込まれにくいことから、目標値については、現状維持とする。
変更なし	その他	市内新設事業所数	その他	市内新設事業所数	－	－	事業所	7,033 （H24-H26年）	4,358 （H26-H28年）	増を目指す （31-32年）	経済センサス	H26-H28年の実績値4,358事業所数より、増を目指す

施策（1）　企業立地の一層の促進と、競争力のある産業集積の形成

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	客観	新規企業立地件数	客観	新規企業立地件数	－	－	件	81	163	220	各年度の認定件数	補助制度を活用した企業誘致・立地促進活動を積極的に行うこととし、目標値を設定
変更なし	客観	新規立地企業の納税額	客観	新規立地企業の納税額	－	－	百万円	2,070	14,591	17,488	税収効果調査	補助制度を活用した企業誘致・立地促進活動を積極的に行うこととし、目標値を設定

施策（2）　市民生活を支える持続性の高い地域経済の構築

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	その他	産業振興財団の経営相談の件数	その他	産業振興財団の経営相談の件数	－	－	件	1,868	1,556	1,500	産業振興財団	H31年度末の目標「2,400」は、H24～28年度指定管理期間における目標値であったが、指定管理が終了したことに伴い、H29年度以降の目標値は「1,500」としている。
変更なし	その他	事業承継又は事業継続計画の策定支援を行った企業数	その他	事業承継又は事業継続計画の策定支援を行った企業数	－	－	社	－	0	5	産業振興財団	計画策定については、事業者の問題意識が低く、セミナーによる課題認識の喚起が中心となっているが、金融機関等が無償で策定支援することもあるため、H31年度末と同レベルでの目標とし
削除	その他	中小企業人材育成研修費助成の利用件数	－	－	人材確保の指標であるため、施策（2）からは削除［施策（5）に記載あり］	－	件	－	7	－	所管課で集計	－
追加	－	－	客観	認定農業者の農産物生産量	農業の生産性向上を測る指標を追加	政策評価の見直しで創設（No129）	kg	56,049	63,756	70,130	所管課で集計	国の産地パワーアップ事業の目標のひとつである、販売額の増加率10%に準じて設定
追加	－	－	客観	地産地消推進店登録数	地産地消に関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No130）	店	－	27	60	所管課で集計	H27，28年で16店をマッチングしてきたことから、今後は飲食店を中心に10店以上の登録を目指す

千葉市まち・ひと・しごと創生総合戦略　基本目標、KPI改訂一覧

施策（3）「技術」と「産業」と「資金」をつなぐ仕組み

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	その他	トライアル発注認定企業数	その他	トライアル発注認定企業数	－	－	件	－	11	10	所管課で集計	トライアル発注は、年度が経過するに従い、商品が少なくなることが予想されることから、H28実績、H29実績より概ね横ばいとして設定した。
変更なし	その他	産業振興財団の事業可能性評価委員会における採択事業数	その他	産業振興財団の事業可能性評価委員会における採択事業数	－	－	件	15	44	80	産業振興財団	これまでの累計と今後の採択見通しを勘案し、設定した。
変更なし	その他	市中小企業資金融資制度「チャレンジ資金」及び「トライアル資金」の実行件数	その他	市中小企業資金融資制度「チャレンジ資金」及び「トライアル資金」の実行件数	－	－	件	75	73	75	所管課で集計	ここ数年の傾向として、資金融資の利用件数自体が減少していること、「チャレンジ」「トライアル」資金の実行件数がほぼ横ばいであることを鑑みて設定した。
追加	－	－	客観	スタートアップ支援受給後の創業者数	施策による起業効果を測る指標として追加	政策評価の見直しで創設（No121）	人	36	29	65	所管課で集計	第3次実施計画の事業量に合せて、目標値を設定

施策（4） MICEの誘致・観光プロモーションによる世界の観光需要の取り込み

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	客観	国際会議開催件数	客観	国際会議開催件数	－	－	件/年	28	63	65	JNTO（日本政府観光局）国際会議開催統計	会議主催者への財政的支援や本市PR等を通じ、早期に東日本大震災前の水準を回復し、平成33年度末には過去最高の実績を目指す
名称変更	客観	入込観光客数	客観	観光入込客数	－	－	千人	22,537	25,345	26,500	千葉県観光入込調査	本市の魅力発信や観光施策の取組みを展開することにより、過去の伸び率等を踏まえ、年/66万人増の2,650万人を設定
追加	－	－	客観	外国人延べ宿泊客数	観光振興のうちインバウンドに関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No115）	千人泊	210	575	1,000	千葉市宿泊統計調査	H28時点581万人泊の数値から毎年120%の平均伸び率の乗じて算出して目標値を設定。東京オリンピック・パラリンピック大会が開催される32年度までに100万人泊を目指す

施策（5） 地域経済を支える人材の育成

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	客観	新規立地企業の市民雇用人数	客観	新規立地企業の市民雇用人数	－	－	人	1,681	4,479	5,439	雇用状況調査	過去の立地企業における市民雇用者実績をもとに新規企業立地件数（計画）に基づいて目標値を設定
変更なし	その他	中小企業人材育成研修費助成の利用件数（再掲）	その他	中小企業人材育成研修費助成の利用件数	－	－	件	－	7	100	所管課で集計	H31年度末目標を継続するものとし、目標値を設定 H29年度までは申請回数を1回としていたが、上限5万円に達するまで申請可能に変更するなど、大幅な増を目指す。
名称変更	その他	就業ポータルサイト ①企業情報掲載	その他	就業ポータルサイトの企業情報掲載数	－	－	社	20	209	200	委託事業者の報告をもとに所管課で集計	H29年度の実績209件と同水準という事で200件を設定
削除	その他	就業ポータルサイト ②就労者数	－	－	サイト掲載企業にアンケート調査を実施し、就労者数を把握しようと考えていたが、回答が少なく正しい数値を把握できないことから、ふるさとハローワーク利用者の就職が決定した	－	人	－	1	－	委託事業者の報告をもとに所管課で集計	－
削除	その他	キャリア教育推進会議の設置	－	－	平成29年度末時点で設置済みのため削除	－	－	－	設置	－	－	－
変更なし	客観	新規就農者数	客観	新規就農者数	－	－	人/年	7	13	5	第3次千葉市農業推進行動計画	第3次千葉市農業推進行動計画に併せて、毎年5名を目標とする。（H29実績の13名には、市の支援を受けずに就業した方をカウントしている。）
追加	－	－	客観	ふるさとハローワーク利用者の就職が決定した割合	雇用マッチング状況を測る指標として追加	政策評価の見直しで創設（No127）	%	13.8	20.9	20.0	ハローワーク及び委託事業者の報告をもとに集計	28年度は過去の統計と比べ、ふるさとハローワークでの就職率が高い状況にあると言えるため、28年度実績値の維持を目指すこととした

千葉市まち・ひと・しごと創生総合戦略　基本目標、KPI改訂一覧

施策（6） ダイバーシティ（多様性）と男女共同参画の推進

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
削除	生活実感	仕事と家庭生活を両立する支援体制が充実している	―	―	政策評価の見直しに併せて削除（生活実感）	―	%	21.0	―	―	市民1万人のまちづくりアンケート	―
変更なし	客観	男性が1週間で育児にかかわる時間	客観	男性が1週間で育児にかかわる時間	―	―	時間/週	18	19.7	24.5	男性の育児に関するアンケート	近年は伸び悩んでいるため、H23末と同程度まで戻すことを見込み毎年1時間増を目指す
削除	その他	市内事業者の女性管理職の割合	―	―	第4次ハーモニープランで目標未設定のため削除	―	%	―	未実施	―	第4次ハーモニープラン	―
変更なし	その他	女性有業率	その他	女性有業率	―	―	%	66.6	71.5	72.4	就業構造基本調査	人口ビジョンで推計した就業人口（経済成長と労働参加が進むケース）を目標値として設定。（H32目標値は、H29実績とH37の当該目標値を直線補完により設定）
変更	生活実感	男女が共に個性と能力を発揮している	生活実感	男女共同参画の考え方が根付いていると感じる割合	政策評価の見直しに伴い変更	生活実感指標（No6）	%	―	調査中（10月下旬）	増を目指す	市民1万人のまちづくりアンケート	生活実感指標は、客観指標と異なり目標を設定することが困難のため「増を目指す」とした。
変更なし	客観	新たに就労した障害のある人の数	客観	新たに就労した障害のある人の数	―	―	人	439	520	585	ハローワーク千葉、ハローワーク千葉南における障害者就職者数にそれぞれ人口按分率を乗じて推計された数の	過去の実績や今後の事業展開を踏まえ、障害のある人の就労件数を着実に増加させることとし、目標値を設定
追加	―	―	客観	男女共同事業者登録制度登録件数	行政だけではなく、民間の取組みに関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No80）	件	75	80	144	第4次ハーモニープラン	「第4次ハーモニープラン」における指標の最終目標値（160件）を達成するため、1年あたり21～22件の増加を目指し、目標値を設定

重点戦略3　出産・子育ての希望をかなえ、若い魅力にあふれたまちづくり

判定	区分	基本目標（旧）	区分	基本目標（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	その他	千葉市合計特殊出生率と県内他都市（東漸岸3市合計）との平均合計特殊出生率の差分の改善	その他	千葉市合計特殊出生率と県内他都市（東漸岸3市合計）との平均合計特殊出生率の差分の改善	―	―	―	0.03	平成30年9月公表	0	市町村別合計特殊出生率(千葉県HP)	平成31年度と同様で待機児童ゼロを目指す
変更なし	その他	6歳未満の子どもがいる子育て世帯の数	その他	6歳未満の子どもがいる子育て世帯の数	―	―	世帯	37,429（22年）	平成32年公表	現状維持	国勢調査	平成31年度と同様で平成26年度末時点の数値を下回らないよう現状維持とする。
変更なし	客観	全国学力・学習状況調査における全国平均正答率の比較（市立小・中学校）	客観	全国学力・学習状況調査における全国平均正答率の比較（市立小・中学校）	―	―	―	（平成27年度）小6：＋1.8 中3：＋1.9	（平成29年度）小6：＋1.1 中3：－0.1	小6：＋2.3 中3：＋2.3	全国学力・学習状況調査　調査結果	第2次千葉市学校教育推進計画における目標値（H33末 小2.5、中2.5）からH32年度末目標値を設定

施策（1） 妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更	生活実感	安心して出産できるまちだと感じる	生活実感	安心して出産・育児ができる環境があると感じる割合	政策評価の見直しに伴い変更	生活実感指標（No3）	%	―	調査中（10月下旬）	増を目指す	市民1万人のまちづくりアンケート	生活実感指標は、客観指標と異なり目標を設定することが困難のため「増を目指す」とした。
削除	生活実感	子育ての不安や悩みを解消するための相談体制などが充実している	―	―	政策評価の見直しに併せて削除（生活実感）	―	%	37.8	―	―	市民1万人のまちづくりアンケート	―
変更なし	その他	三世代家族同居・近居等支援助成（1年目）件数	その他	三世代家族同居・近居等支援助成（1年目）件数	―	―	件/年	63	73	63	助成件数	平成30年度予算における見込件数（63件）を目標値とした。※平成27年度から平成29年度の平均助成実績は61件となっている。
追加	―	―	客観	子育て支援コンシェルジュ相談件数	子育て不安の軽減・解消の観点から指標を追加	政策評価の見直しで創設（No31）	件	5,390	11,062	16,000	相談件数実績	年間1,000件の相談増を目標とした

千葉市まち・ひと・しごと創生総合戦略　基本目標、KPI改訂一覧

施策（2）　充実した教育・保育の提供

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの 算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	客観	保育所待機児童数	客観	保育所待機児童数	―	―	人	0	8 （新定義）	0	待機児童数	待機児童ゼロを目標とし、受入れ枠の拡大を計画的に推進する
変更なし	客観	子どもルーム待機児童数	客観	子どもルーム待機児童数	―	―	人	364	638	0	待機児童数	施設の新規開設等により、段階的に減少させ、待機児童ゼロを目指すこととする
変更	その他	放課後において総合コーディネーターが企業・大学等の協力を得て開発した高度な体験プログラムの提供校数	客観	放課後子ども教室参加率	地域による学習支援・触れあいに関する指標に変更	政策評価（No58）	%	12.8	14.3	14.4	所管課で集計	今後も着実に参加児童数を増加させていくこととし、年2,000人程度増とする目標値を設定
変更	生活実感	こどもが、学校でいきいきと学び、心身ともに健やかに成長している	生活実感	子どもが小中学校で充実した教育を受けられると感じる割合	政策評価の見直しに伴い変更	生活実感指標（No7）	%	―	調査中 （10月下旬）	増を目指す	市民1万人のまちづくりアンケート	生活実感指標は、客観指標と異なり目標を設定することが困難のため「増を目指す」とした。
削除	生活実感	こどもが地域の大人たちに見守られながら育っている	―	―	政策評価の見直しに併せて削除（生活実感）	―	%	32.3	―	―	市民1万人のまちづくりアンケート	―
削除	その他	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う割合の増	―	―	出典先アンケート内容の変更により、数値を取得できないため削除	―	%	小学校：37.0% 中学校：22.2% （27年度）	―	―	全国学力・学習状況調査　調査結果	―
追加	―	―	客観	学校支援地域本部支援件数	地域による学習支援に関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No59）	件	38	224	645	設置校からの報告	今後毎年10校ずつ新規設置を予定していることから、1校あたり支援数の過去実績を踏まえ、目標値を設定

施策（3）　若さにあふれた活気あるまちづくり

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの 算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	客観	こどもの参画事業参加人数	客観	こどもの参画事業参加人数	―	―	人	331	457	520	ワークショップ等参加延べ人数	こどもが減っていく中で、3年間で2割増を成長の目標とした。
削除	生活実感	こどもが地域などで意見を述べる場・発言する場がある	―	―	政策評価の見直しに併せて削除（生活実感）	―	%	12.8	―	―	市民1万人のまちづくりアンケート	―

重点戦略4　高齢者が心豊かに暮らせるまちづくり

判定	区分	基本目標（旧）	区分	基本目標（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの 算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更	客観	介護・支援を必要としない高齢者の割合	客観	介護・支援を必要としない高齢者の割合 （75歳以上85歳未満）	表現変更（年齢を追加）年齢を区切って把握するように変更	政策評価（No40）	%	80.5	81.3	82.5	高齢者保健福祉のあらまし等	28末から29末実績を踏まえ、改善割合が年度ごとに倍増するとして目標値を設定

施策（1）　地域包括ケアシステムの構築・強化

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの 算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
削除	その他	あんしんケアセンター ①設置数	その他	あんしんケアセンター ①設置数	平成29年度末時点で戦略期間内の設置数は達成したため削除	―	所	24	30	―	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における日常圏域ごと高齢者人口	―
名称変更	その他	あんしんケアセンター ②包括三職種の配置数	その他	あんしんケアセンター包括三職種の配置数	―	―	人	102	135	150	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における日常圏域ごと高齢者人口	高齢者人口数の推定値に応じて配置数を設定。 ※原則として、圏域人口2,000人につき1人配置。ただし、8,000人以下の圏域については、4名配置。また、出張所圏域については、さらに1名配置。
削除	生活実感	一人暮らしや支援の必要な高齢者が、地域で見守られて安心して暮らすことができる	―	―	政策評価の見直しに併せて削除（生活実感）	―	%	25.8	―	―	市民1万人のまちづくりアンケート	―

施策（2）　健康づくりの推進による健康寿命の延伸

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの 算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	その他	健康寿命の延伸	その他	健康寿命の延伸	―	―	年	男性：78.61 女性：83.36	平成32年 公表	延伸を目指す	千葉市保健統計、要介護認定割合等から算出	H30年度に健康づくり施策の広報プランを策定し、H31年度から実施する。広報・啓発を強化し、主体的に健康づくりに取り組む市民を増やすことにより、健康寿命の延伸を目指す。

千葉市まち・ひと・しごと創生総合戦略　基本目標、KPI改訂一覧

施策（3） アクティブシニアの活躍推進

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更	生活実感	高齢者が生きがいを持ちいきいきと暮らしている	生活実感	高齢者が生きがいや役割を持ち、安心して暮らすことができる環境があると感じる割合	政策評価の見直しに伴い変更	生活実感指標（No4）	%	―	調査中（10月下旬）	増を目指す	市民1万人のまちづくりアンケート	生活実感指標は、客観指標と異なり目標を設定することが困難のため「増を目指す」とした。
削除	行動	この1年間に、地域活動やボランティア活動に参加したことがある（65歳以上の高齢者）	―	―	政策評価の見直しに併せて削除（行動）	―	%	27.7	―	―	市民1万人のまちづくりアンケート	―
名称変更	その他	高齢者の有業率	その他	高齢者の有業率（65歳以上）	―	―	%	19.5	22.4	22.1	就業構造基本調査	人口ビジョンで推計した就業人口（経済成長と労働参加が進むケース）を目標値として設定。
追加	―	―	客観	生涯現役応援センターにおける就労・ボランティア等のマッチング件数	高齢者の就労・生きがいづくりに関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No41）	件	―	77	339	所管課集計	他市実績より想定利用者の2割にマッチングすることを想定し、高齢者推計人口の伸び率及び32年に1か所増を前提に設定

重点戦略5　都市資源を活用し、ひととひととがつながるまちづくり

判定	区分	基本目標（旧）	区分	基本目標（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	その他	公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合	その他	公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合	―	―	%	80.7	84.0	増を目指す	所管課で算出	急激に利便性の高いエリアは増えないが、平成29年度より増を目指すを目標値として設定
名称変更	客観	公共交通機関の利用者数	客観	公共交通機関の乗車数	―	―	千人	743	779	813	所管課で算出	現状維持を目標としていたが、近年のバス乗客数はおおむね緩やかに増加しており、今後もこの推移が継続すると考え、目標値を変更

施策（1） 都市のコンパクト化と活力を生み出す地域空間の形成

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
削除	生活実感	駅前など、市内の市街地は整備されて魅力的だと感じる	―	―	政策評価の見直しに併せて削除（生活実感）	―	%	32.1	―	―	市民1万人のまちづくりアンケート	―
追加	―	―	客観	市街化区域のうち公共交通の利便性が高い区域に居住する人口の割合	集約型都市の形成に関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No96）	%	75.0	77.5	81.0	「公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合の算出マニュアル（国土交通省）」に沿った調査より算出	これまでの実績を勘案し、年1%で目標を設定
追加	―	―	客観	地区計画の策定数	地域による土地利用誘導に関する指標	政策評価の見直しで創設（No97）	地区	49	57	63	所管課で算出	現在の協議状況をもとに目標値を設定

施策（2） ネットワーク化の促進による、地域の拠点づくり

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更	生活実感	市内の公共交通は利用しやすい	生活実感	市内の公共交通が便利だと感じる割合	政策評価の見直しに伴い変更	生活実感指標（No11）	%	―	調査中（10月下旬）	増を目指す	市民1万人のまちづくりアンケート	生活実感指標は、客観指標と異なり目標を設定することが困難のため「増を目指す」とした。
変更	生活実感	市内の道路は、車でスムーズに移動できる	生活実感	市内の道路は移動がしやすいと感じる割合	政策評価の見直しに伴い変更	生活実感指標（No12）	%	―	調査中（10月下旬）	増を目指す	市民1万人のまちづくりアンケート	生活実感指標は、客観指標と異なり目標を設定することが困難のため「増を目指す」とした。
削除	生活実感	買物などの日常の外出は、車を使わなくても便利だと感じる	―	―	政策評価の見直しに併せて削除（生活実感）	―	%	46.8	―	―	市民1万人のまちづくりアンケート	―
追加	―	―	客観	都市計画道路の整備率	道路ネットワークの整備状況に関する指標を追加	政策評価（No105）	%	71.8	75.1	75.4	所管課集計	整備済延長に32末の整備完了見込み路線延長を加え、目標値を設定

施策（3） 幕張新都心の国際競争力の向上

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	客観	国際会議開催件数（再掲）	客観	国際会議開催件数（再掲）	―	―	件	28	63	65	JNTO（日本政府観光局）国際会議開催統計	会議主催者への財政的支援や本市PR等を通じ、早期に東日本大震災前の水準を回復し、平成33年度末には過去最高の実績を目指す
削除	その他	幕張新都心内ホテル客室稼働率	―	―	ホテル側より対外的な数値は非公表とのことでデータ集計が困難なため削除	―	%	86	―	―	―	―
追加	―	―	客観	都心部（幕張新都心）の日々活動人口	人の活動に関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No112）	千人	225	225	229	所管課で集計	直近の傾向から算出するとともに、32年度末はオリパラによる来場者等の増を見込んで設定

千葉市まち・ひと・しごと創生総合戦略　基本目標、KPI改訂一覧

重点戦略６　千葉市を知り、そして好きになる仕組みづくり

判定	区分	基本目標（旧）	区分	基本目標（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの 算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更	その他	「千葉氏」を知っている人の割合	その他	千葉市にアイデンティティがあると思う人の割合	目標の達成度をより端的に把握でき、毎年度数値を取得可能	－	%	―	43.5	向上	市WEBアンケート	千葉市都市アイデンティティ戦略プランの目標数値に準じ、現状値からの向上を目指す。
名称変更	客観	入込観光客数（再掲）	客観	観光入込客数（再掲）	－	－	千人	22,537	25,345	26,500	千葉県観光入込調査	本市の魅力発信や観光施策の取組みを展開することにより、過去の伸び率等を踏まえ、年/66万人増の2,650万人を設定
変更	行動	この1年間に、地域活動やボランティア活動に参加したことがある	行動	公共・公益的な活動の状況	政策評価の見直しに伴い変更	行動指標（No15）	%	－	調査中 （10月下旬）	増を目指す	市民1万人のまちづくりアンケート	行動指標は、客観指標と異なり目標を設定することが困難のため「増を目指す」とした。

施策（1）　都市アイデンティティの確立

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの 算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
削除	生活実感	市内の海辺に魅力を感じる	－	－	政策評価の見直しに併せて削除（生活実感）	－	%	37.9	－	－	市民1万人のまちづくりアンケート	－
変更	客観	稲毛海浜公園利用者数	客観	稲毛海浜公園利用者数（有料施設）	より正確な数値を把握するため、有料施設利用者数に変更	政策評価（No4）	千人	650	712	895	所管課集計	指定管理施設は、指定管理者の事業計画、民間施設は、民間事業者の事業計画に基づき設定
変更なし	その他	加曽利貝塚博物館の入館者数	その他	加曽利貝塚博物館の入館者数	－	－	人	9,975	71,510	100,000	加曽利貝塚 博物館で集計	特別史跡指定に伴い、さらなる来館者増が見込まれることから、H32は開館以来初の100,000人を目指す。
削除	その他	谷津田・里山保全活動参加者数	－	－	4つの地域資源がメインのため、関連の薄い指標は削除（KPIの整理）	－	人	782	816	－	環境保全課で集計（昨年度マニフェストの値を時点修正）	－
削除	その他	市民農園・農業体験農園数	－	－	4つの地域資源がメインのため、関連の薄い指標は削除（KPIの整理）	－	箇所	35	39	－	所管課で集計	－
削除	客観	動物公園入場者数	－	－	4つの地域資源がメインのため、関連の薄い指標は削除（KPIの整理）	－	万人	58	62	－	所管で集計	－
変更なし	その他	アイデンティティ醸成につながる郷土教育の実施	その他	アイデンティティ醸成につながる郷土教育の実施	－	－	%	－	79.2	市立小・中学校全校実施	各小学校へのアンケート	29年度に全校実施を達成した。引き続き、研修会等で社会科主任への周知を行い、全校実施を維持していく。
追加	－	－	客観	オオガハス関連イベント来場者数	花に対する市民の関心、親しみに関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No11）	人	2,000	19,090	20,000	所管で集計	これ以上の日数確保が困難なこと、H29は天候に恵まれた結果であることから、H29から微増とした（「夜ハス」は今後の開催内容が未定のため含めていない）
追加	－	－	その他	郷土博物館入場者数	千葉氏に対する市民の関心、親しみに関して客観的に把握可能な数値を指標として追加	－	人	37,018	61,228	65,000	郷土博物館で集計	目標値は現況を勘案して設定。

施策（2）　市民全員参加のまちづくり

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの 算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
削除	その他	ちばレポ ①地域課題投稿登録者（レポーター）数	－	－	市民参加を示すアウトカム指標としては、レポート数の方が適切と考えるため削除	－	人	2,784	5,117	－	所管課で集計	－
削除	その他	ちばレポ ②地域課題解決参加登録者（サポーター）数の増	－	－	市民参加を示すアウトカム指標としては、レポート数の方が適切と考えるため削除	－	人	662	1,707	－	所管課で集計	－
変更なし	客観	地域運営委員会設置地区数	客観	地域運営委員会設置地区数	－	－	地区	2	14	26	地域運営委員会の設置状況	4地区増／年を継続するものとして設定
名称変更	その他	救命講習会年間受講率	その他	救命講習受講者対人口年間普及率	－	－	%	2.7	4.19	政令市中1位	年間対人口普及率（政令市共通フォーマット速報値）	平成28、29年度に引き続き、政令市中1位を目標とする。 （平成28年度：3.93%、平成29年度：4.19%で政令市中1位）
名称変更	客観	全世帯に対する自主防災組織加入世帯の割合	客観	自主防災組織結成率	－	－	%	65.0	63.6	69.7	自主防災組織加入世帯：所管課で集計	毎年20組織を計画的に結成するベースで、目標値を設定した
変更	客観	避難行動要支援者名簿の町内自治会や自主防災組織への提供数	客観	避難行動要支援者名簿の提供率	条例制定に基づき、市として取組みを強化している指標に変更	政策評価の見直しで創設（No85）	%	16.6	33.0	48.0	避難行動要支援者名簿の提供数：所管課で集計	目標値はH26～H28の各年度末の提供率の増加状況に鑑み、前年度の提供率に＋5%で設定した
追加	－	－	客観	ちばレポのレポート数	市民協働の場の提供に関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No78）	件/年	1,016	1,504	2,280	所管課で集計	過去実績から引き続き同程度に増加させていくことを目指し、目標値を設定
追加	－	－	客観	避難所運営委員会設置率	地域における防災体制の充実に関する指標を追加	政策評価（No87）	%	68.6	91.3	100	所管課で集計	目標値を設定した現時点で当初の目標値を大きく上回っていることから、100%達成を前倒しする

千葉市まち・ひと・しごと創生総合戦略　基本目標、KPI改訂一覧

施策（3）「時間を返す」市民サービスの実現

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
変更なし	その他	対象証明書総交付件数に対するコンビニ交付件数の割合	その他	対象証明書総交付件数に対するコンビニ交付件数の割合	―	―	%	―	3.4	検討中（10月予定）	区政概要を基に算出	現在、検討中であり、10月までには算出する予定
変更なし	その他	事業者向け行政手続の改善数	その他	事業者向け行政手続の改善数	―	―	―	―	実施	手続き改善数の増	所管課で算出	事業者向け行政手続の改善について引き続き、取り組んでいく。また、国のIT総合戦略本部では、デジタル・ガバメント実行計画に基づき、行政手続のオンライン化、添付書類（住民票・戸籍謄本・法人登記事項証明書）の撤廃に向けた取組等を推進し、法改正を検討していることから、国の動向に合わせた取組みを今後検討する。
追加	―	―	客観	電子申請サービスの手続数	市民の利便性向上に関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No109）	手続	296	636	730	所管課で算出	サービス開始以降の平均増加数は約60手続であることから、50～60手続程度増加する想定として設定

重点戦略7　未来へと引き継がれる「オリンピック・パラリンピック・レガシー」の創出

判定	区分	基本目標（旧）	区分	基本目標（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
名称変更	客観	入込観光客数（再掲）	客観	観光入込客数（再掲）	―	―	千人	22,537	25,345	26,500	千葉県観光入込調査	本市の魅力発信や観光施策の取組みを展開することにより、過去の伸び率等を踏まえ、年/66万人増の2,650万人を設定
削除	生活実感	市の国際的なイメージが向上していると感じている人の割合	―	―	政策評価の見直しに併せて削除（生活実感）	―	%	21.2	―	―	市民1万人のまちづくりアンケート	―
追加	―	―	客観	外国人延べ宿泊客数（再掲）	観光振興のうちインバウンドに関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No115）	千人泊	210	575	1,000	千葉市宿泊統計調査	東京オリンピック・パラリンピック大会が開催される32年度までに100万人泊を目指す

施策（1）　有形・無形の「レガシー」の、未来への承継

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
削除	客観	国際会議開催件数（再掲）	―	―	関連の薄い指標は削除（KPIの整理）	―	件	28	63	―	JNTO（日本政府観光局）国際会議開催統計	―
変更なし	その他	道路案内標識の英語表示修正	その他	道路案内標識の英語表示修正	―	―	基	―	60	完了（平成31年度）	決算	H31年度末の完了を目標としている。
変更なし	客観	国際交流ボランティア斡旋件数	客観	国際交流ボランティア斡旋件数	―	―	件	573	710	780	（公財）千葉市国際交流協会	過去実績の推移を踏まえ、実績と乖離が大きかった目標値を修正
変更なし	客観	ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ活動の参加者数	客観	ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ活動の参加者数	―	―	千人	4,204	4,503	4,488	所管課で集計	活動の場の提供や、老朽化した施設の改修などを推進することにより、参加者の増を図ることとして年3千人増の目標値を設定
変更	生活実感	週に1回はｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ活動を行っている	生活実感	スポーツを楽しめる機会があると感じる割合	政策評価の見直しに伴い変更	生活実感指標（No10）	%	―	調査中（10月下旬）	増を目指す	市民1万人のまちづくりアンケート	生活実感指標は、客観指標と異なり目標を設定することが困難のため「増を目指す」とした。

施策（2）　パラリンピックを通じた共生社会の実現

判定	区分	KPI（旧）	区分	KPI（新）	改訂理由	改訂根拠	単位	実績値 2014(H26年)度末	実績値 2017(H29年)度末	目標値 2020(H32年)度末	基本目標・KPIの算出根拠	目標値2020(H32年)度末 設定の考え方
名称変更	その他	障害者スポーツへの関心がある人の割合	その他	パラスポーツへの関心がある人の割合	―	―	%	20.6	53.4	増を目指す	「千葉市スポーツ推進計画策定に関わる市民意識調査」調査結果報告書』平成29年度第10回WEBアンケート	パラスポーツへの興味・関心がある方の割合が高まっているが、2020年のパラリンピックに向け、当該割合をさらに高めたいと考える。
変更なし	その他	パラリンピアン等による学校訪問	その他	パラリンピアン等による学校訪問	―	―	校	―	71	20	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉市行動計画	オリパラ開催後も事業を継続し、平成32年度から全校を対象に再度実施する予定。
追加	―	―	客観	パラスポーツ大会観戦者の割合	スポーツの中でも市として取組みを強化するパラスポーツ振興に関する指標を追加	政策評価の見直しで創設（No67）	%	―	7.9	17.0	平成29年度第10回WEBアンケート	オリパラに向けた千葉市の行動計画に基づき、33年度末までに20%を目指す。